

市民アンケート調査報告書

調査Ⅰ 『第6次宝塚市総合計画』策定のための市民アンケート調査

調査Ⅱ 「宝塚市のまちづくり」に関する市民アンケート調査

(概要版)

宝 塚 市

目 次

第1章 調査の概要.....	1
第2章 調査Ⅰと調査Ⅱの共通項目の集計結果	
2-1. 回答者の属性	2
2-2. 居留意向について	3
第3章 調査Ⅰの結果	
3-1. 第5次宝塚市総合計画後期基本計画の取組について	5
3-2. 協働のまちづくりについて	8
3-3. 行財政改革について	10
3-4. 公共施設について	12
3-5. 宝塚市のイメージについて	13
第4章 調査Ⅱの結果	
4-1. 市民の意識や活動状況について	14
4-2. 市の取り組みについて	18

第1章 調査の概要

第6次宝塚市総合計画の策定にあたり、第5次宝塚市総合計画後期基本計画の進捗状況の確認、及び市民の意識や活動状況、市の取組に対する評価の把握を目的とする。

■ 調査目的

【調査Ⅰ】『第6次宝塚市総合計画』策定のための市民アンケート調査

第5次宝塚市総合計画後期基本計画の各施策についての市民の満足度と今後の重点度についての意向等の把握、及び前回調査との定点比較。

【調査Ⅱ】「宝塚市のまちづくり」に関する市民アンケート調査

市民の意識や活動状況、市の取組に対する評価の把握、及び前回、前々回調査との定点比較。

■ 調査内容

(1) 調査対象：宝塚市在住の16歳以上の市民（平成30年（2018年）9月末日現在）

【調査Ⅰ】 3,000人 【調査Ⅱ】 3,000人

(2) 実施期間：平成30年（2018年）11月～平成30年（2018年）12月

(3) 調査方法：郵送による配付・回収

(4) 抽出方法：多層ランダムサンプリング抽出法

宝塚市域をまちづくり協議会の20地区に区分し、当該地区に居住する市民（住民基本台帳）から150人を無作為に抽出した。

(5) 集計方法：ウエイトバック集計

市全体の傾向を正しく把握するため、各地区の人口規模に応じて回答数に重みづけをしている。

■ 回収結果

(1) 調査Ⅰと調査Ⅱの回収結果

	配布数	有効回収数	有効回収率（%）
調査Ⅰ	3,000	1,169	39.0
調査Ⅱ	3,000	1,259	42.0

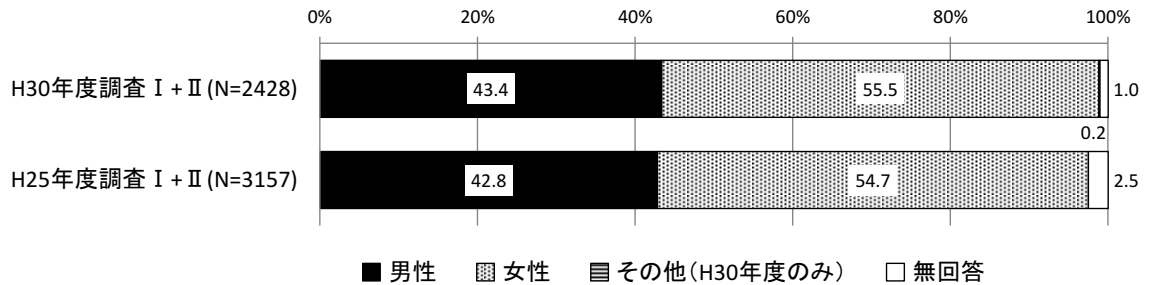
■ 報告書の見方

- ・ 図中の「合計」は無回答（回答なし）を含む。
- ・ 図及び表の“N”は各設問における母数を表している。クロス集計の場合は、クロス集計の基準となる回答項目の母数である。
- ・ 百分比（%）は、原則として小数第2位を四捨五入し、小数第1位まで表示している。そのため、四捨五入の結果、個々の比率の合計が100%と一致しないことがある。

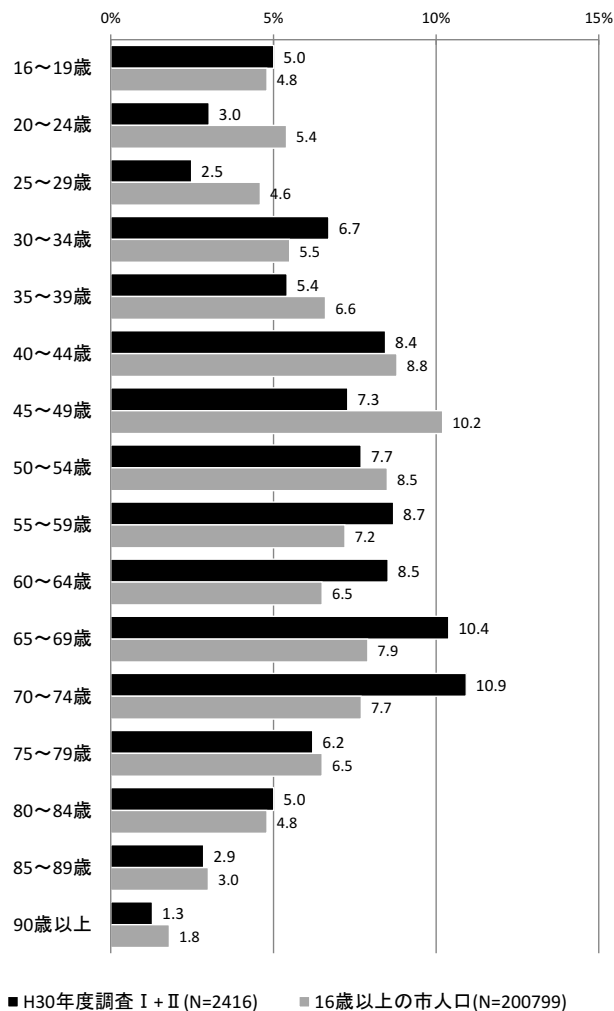
第2章 調査 I と調査 II の共通項目の集計結果

2-1. 回答者の属性

(1) 性別



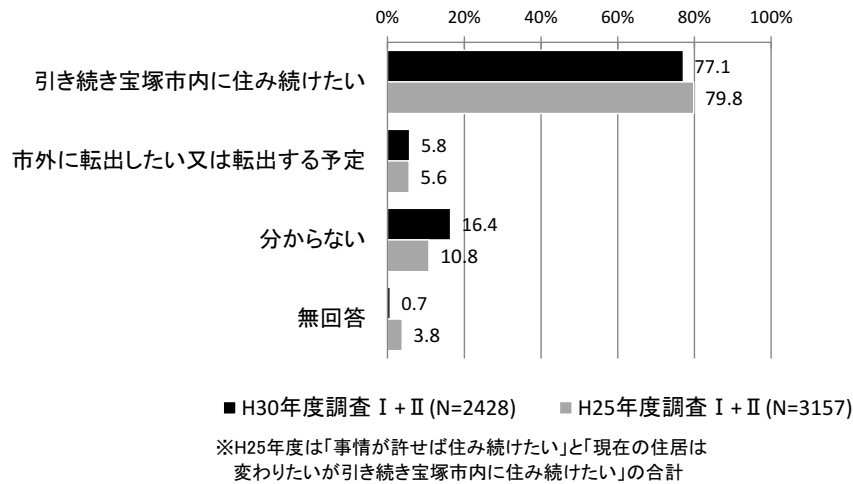
(2) 年齢区分



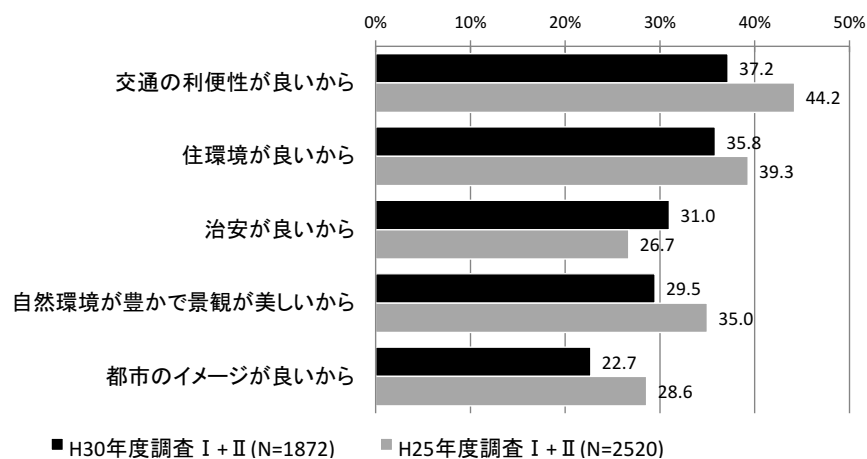
※H30年度 I + II (N=2416)は(N=2428)から年齢無回答(N=12)を除外した値

2-2. 居住意向について

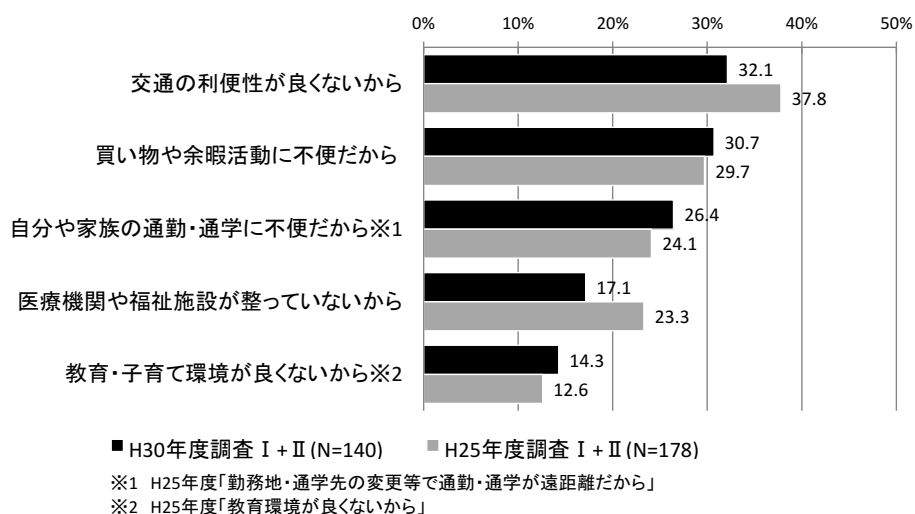
(1) 今後の居住意向



(2) 宝塚市に住み続けたい理由(複数回答3つ) (上位5つ)



(3) 市外転出の理由(複数回答3つ) (上位5つ)



(4)「居住意向について」のまとめ

- ・豊かな自然、利便性の良い交通、宝塚歌劇に代表される芸術文化の雰囲気などの良質な居住環境に恵まれていることもあり、「引き続き宝塚市内に住み続けたい」は77.1%と高くなっている。住み続けたい理由としては、「交通の利便性が良い」に加え、「住環境が良い」、「治安が良い」、「自然環境が豊かで景観が美しい」、「都市のイメージが良い」などである。
- ・また、「市外に転出したい又は転出する予定」が5.8%あり、その理由としては、「交通の利便性が良くない」、「買い物や余暇活動に不便」、「自分や家族の通勤・通学に不便」などである。

第3章 調査 I の結果

3-1. 第5次宝塚市総合計画後期基本計画の取組について

後期基本計画における38施策の「現在の満足度」と「今後の重点度」の回答について、以下の通りに数値化し、分析を行った。

① 満足度と重点度の数値化(算出方法)

- ・各選択肢に（無回答を除く）得点を配分する。

表 満足度の得点配分

選択肢	得点
満足	5
やや満足	4
普通	3
やや不満	2
不満	1
無回答	対象外

表 重点度の得点配分

選択肢	得点
重点を置く	5
やや重点を置く	4
普通	3
あまり重点を置かない	2
重点を置かない	1
無回答	対象外

- ・選択肢の構成比に得点を乗じ、その合計値を選択肢の構成比の合計で除して、満足度と重点度を算出する。

- ・算出式

満足度 = $((\text{「満足」構成比} \times 5) + (\text{「やや満足」構成比} \times 4) + (\text{「普通」構成比} \times 3) + (\text{「やや不満」構成比} \times 2) + (\text{「不満」構成比} \times 1)) \div \Sigma (\text{選択肢の構成比の合計})$

重点度 = $((\text{「重点を置く」構成比} \times 5) + (\text{「やや重点を置く」構成比} \times 4) + (\text{「普通」構成比} \times 3) + (\text{「あまり重点を置かない」構成比} \times 2) + (\text{「重点を置かない」構成比} \times 1)) \div \Sigma (\text{選択肢の構成比の合計})$

② 算出結果と経年比較

現在の満足度が低い施策は、「12 道路、交通」、「6 行財政運営」、「34 商業・サービス業・工業」、「9 土地利用」、「36 雇用・勤労者福祉」などである。

現在の満足度が高い施策は、「28 都市景観」、「29 緑化・公園」、「11 住宅・住環境」、「7 防災・消防」、「14 上下水道」などである。

今後の重点度が高い施策は、「5 危機管理」、「8 防犯・交通安全」、「12 道路・交通」、「7 防災・消防」、「20 社会保障」などである。

前回調査との比較では、現在の満足度は、「6 行財政運営」、「9 土地利用」、「19 障がい者福祉」などが上昇しており、全般的に満足度が上昇している。今後の重点度は、「6 行財政運営」、「5 危機管理」、「34 商業・サービス業・工業」などが低下しており、低下しているものが比較的多い。

表 「現在の満足度」と「今後の重点度」の経年比較（H30年度、H25年度）

基本目標	施策	H30年度調査			H25年度調査		
		足現 度在 の満	点今 度後 の重	差重満 点度と	足現 度在 の満	点今 度後 の重	差重満 点度と
基本目標1 これからの 都市経営	1 市民自治	2.97	3.28	0.31	2.99	3.30	0.31
	2 市民と行政との協働	2.86	3.37	0.51	2.88	3.39	0.51
	3 開かれた市政	2.87	3.48	0.61	2.84	3.61	0.77
	4 情報化	2.87	3.58	0.71	2.85	3.61	0.76
	5 危機管理	2.80	4.01	1.21	2.77	4.20	1.43
	6 行財政運営	2.74	3.66	0.92	2.63	3.95	1.32
基本目標2 安全・都市 基盤	7 防災・消防	3.12	3.94	0.82	3.10	4.05	0.95
	8 防犯・交通安全	3.03	3.97	0.94	2.95	3.98	1.03
	9 土地利用	2.78	3.56	0.78	2.67	3.54	0.87
	10 市街地・北部整備	2.83	3.47	0.64	2.79	3.49	0.70
	11 住宅・住環境	3.17	3.81	0.64	3.13	3.79	0.66
	12 道路・交通	2.66	3.95	1.29	2.66	3.88	1.22
	13 河川・水辺空間	3.05	3.50	0.45	3.06	3.50	0.44
	14 上下水道	3.11	3.75	0.64	3.13	3.62	0.49
基本目標3 健康・福祉	15 地域福祉	3.03	3.51	0.48	3.00	3.63	0.63
	16 健康	3.02	3.67	0.65	3.05	3.67	0.62
	17 保健・医療	2.97	3.91	0.94	2.95	3.99	1.04
	18 高齢者福祉	2.96	3.86	0.90	2.93	3.99	1.06
	19 障がい者福祉	3.01	3.67	0.66	2.90	3.78	0.88
	20 社会保障	2.92	3.94	1.02	2.87	3.97	1.10
基本目標4 教育・子ども ・人権	21 人権・同和	3.09	3.31	0.22	3.06	3.26	0.20
	22 男女共同参画	3.04	3.32	0.28	3.06	3.28	0.22
	23 児童福祉	3.03	3.71	0.68	3.01	3.73	0.72
	24 青少年育成	3.01	3.68	0.67	2.93	3.73	0.80
	25 学校教育	2.98	3.85	0.87	2.89	3.92	1.03
	26 社会教育	2.97	3.59	0.62	2.94	3.61	0.67
	27 スポーツ	3.05	3.37	0.32	2.99	3.42	0.43
基本目標5 環境	28 都市景観	3.26	3.69	0.43	3.16	3.75	0.59
	29 緑化・公園	3.22	3.69	0.47	3.14	3.76	0.62
	30 環境保全	3.10	3.64	0.54	3.02	3.61	0.59
	31 循環型社会	3.05	3.70	0.65	3.03	3.81	0.78
	32 都市美化・環境衛生	3.10	3.81	0.71	3.09	3.74	0.65
基本目標6 観光・文化 ・産業	33 観光	2.88	3.69	0.81	2.79	3.76	0.97
	34 商業・サービス業・工業	2.74	3.59	0.85	2.66	3.74	1.08
	35 農業	2.91	3.42	0.51	2.93	3.50	0.57
	36 雇用・勤労者福祉	2.79	3.69	0.90	2.74	3.73	0.99
	37 消費生活	2.85	3.52	0.67	2.85	3.46	0.61
	38 文化・国際交流	2.98	3.38	0.40	2.92	3.42	0.50

③ クロス分析

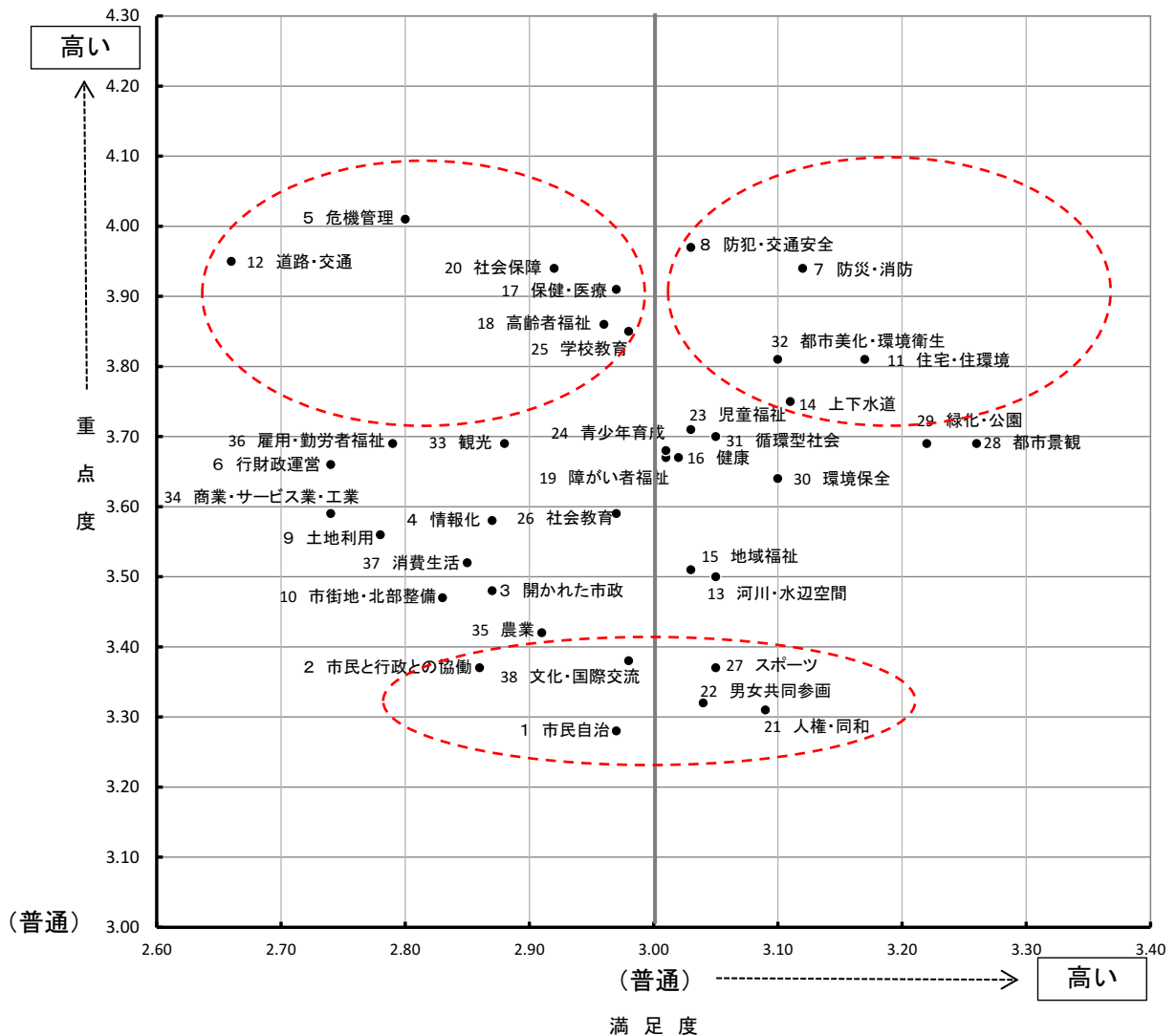
数値化した満足度と重点度のデータを元に分布図を作成した。

今後の重点度が高かつ現在の満足度が高い施策は、「8 防犯・交通安全」、「7 防災・消防」、「32 都市美化・環境衛生」、「11 住宅・住環境」、「14 上下水道」などである。

今後の重点度は高いが、現在の満足度が低い施策は、「5 危機管理」、「12 道路・交通」、「20 社会保障」、「17 保健・医療」、「18 高齢者福祉」、「25 学校教育」などである。

また、重点度が低い「1 市民自治」、「21 人権・同和」、「22 男女共同参画」、「2 市民と行政との協働」、「27 スポーツ」、「38 文化・国際交流」などの施策については、市民に対して今後も趣旨への理解や参画への啓発が求められる。

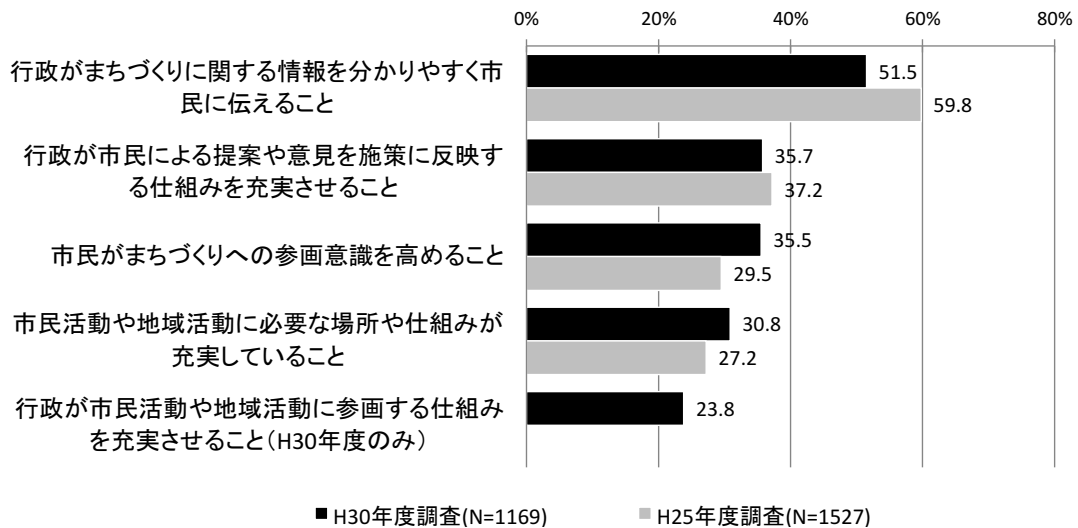
図 現在の満足度と今後の重点度 H30 年度調査



3-2. 協働のまちづくりについて

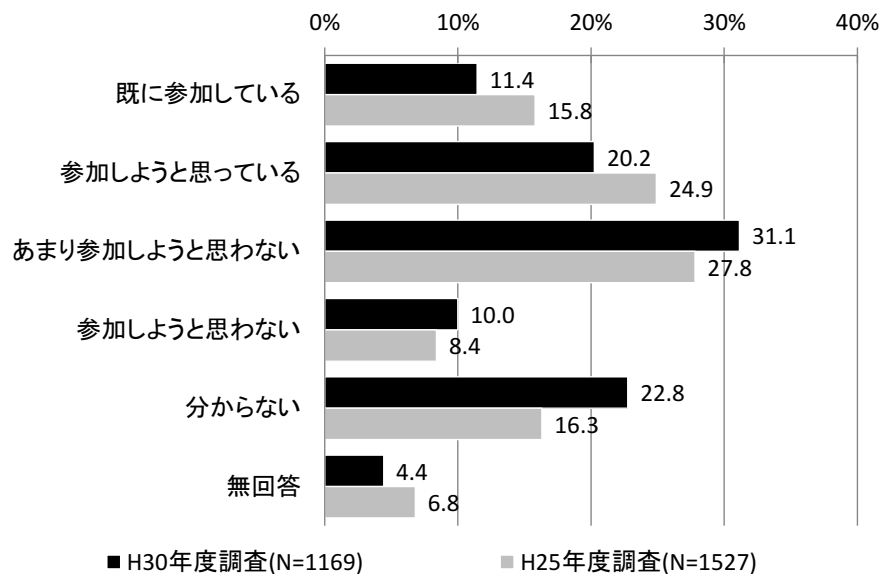
(1) 協働のまちづくりを進めるために必要なこと(複数回答3つ) (上位5つ)

問 17 これからのまちづくりには、市民、地域組織、ボランティア団体などによる市民活動や地域活動がますます重要になってくると言われています。そこで、市民と行政が協働でまちづくりを進めていくためには、どんなことが必要だと思いますか。次の中から3つまで選んで番号に○を付けてください。



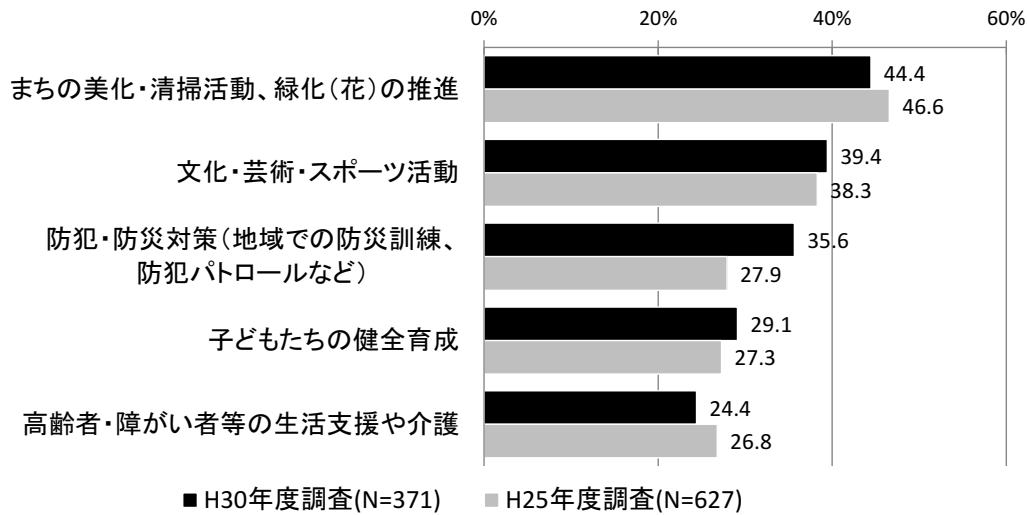
(2) 市民活動や地域活動などの参加状況

問 18 市民活動や地域活動などについて、あなたの参加状況や参加へのお気持ちについておたずねします。次の中から1つ選んで番号に○を付けてください。



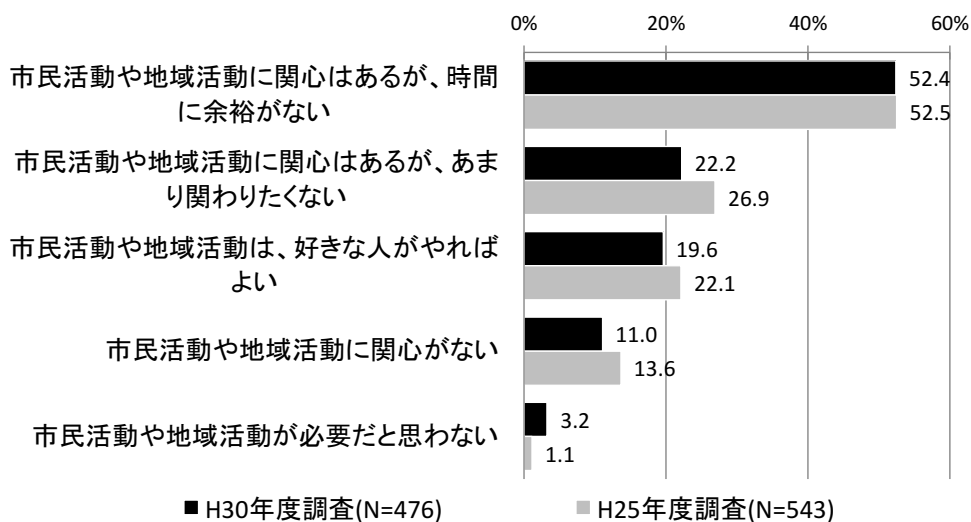
(3)参加しているまたは参加したい活動(複数回答可) (上位5つ)

問 18-1 問 18 で「1」、「2」と回答された方におたずねします。どのような分野において、市民活動や地域活動などに参加していますか、又は参加しようと思えますか。次の中から当てはまるものすべての番号に○を付けてください。



(4)参加しようと思わない理由(複数回答2つ) (上位5つ)

問 18-2 問 18 で「3」、「4」と回答された方におたずねします。参加しようと思わないのは、なぜでしょうか。次の中から2つまで選んで番号に○を付けてください。



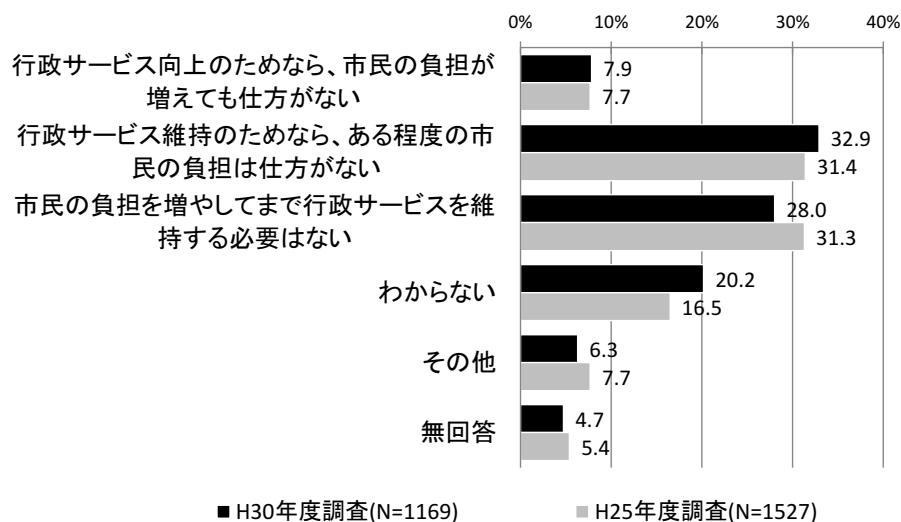
(5)「協働のまちづくりについて」のまとめ

- ・協働のまちづくりを進めるにあたって必要なこととして、「行政がまちづくりに関する情報を分かりやすく市民に伝えること」、「行政が市民による提案や意見を施策に反映する仕組みを充実させること」が上位に挙げられている。
- ・「市民がまちづくりへの参画意識を高めること」は、前回調査 29.5%から 6.0 ポイント上昇している。
- ・市民活動や地域活動に「参加している」のは 11.4%であるが、「参加しようと思っている」20.2%を加えると、30%を超えているものの前回調査より低下している。
- ・また、参加分野は、比較的参加しやすく、具体的な成果が見える「まちの美化・清掃活動、緑化（花）の推進」や市民の特技・経験が活かせる「文化・芸術・スポーツ活動」、地域の安心安全にかかわる「防犯・防災対策（地域での防災訓練、防犯パトロールなど）」のほか、「子どもたちの健全育成」、「高齢者・障がい者等の生活支援や介護」など人を支える分野が高い。

3-3. 行財政改革について

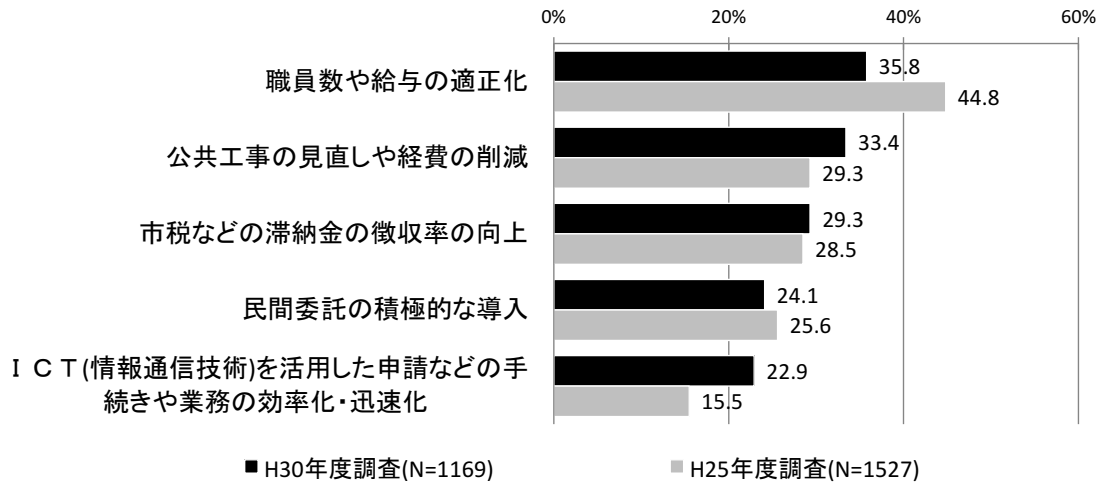
(1) 行政サービスと市民の負担のバランスについての考え

問 20 行財政改革を進めていくうえで、行政サービスと市民の負担のバランスについて、どのようにお考えですか。次のうち、最もあなたの考えに近いものを1つ選んで番号に○を付けてください。



(2) 今後の行財政改革で、特に重視するもの(複数回答3つ) (上位5つ)

問 21 今後、どのような行財政改革が必要とお考えですか。特に重視するものを3つまで選んで番号に○を付けてください。



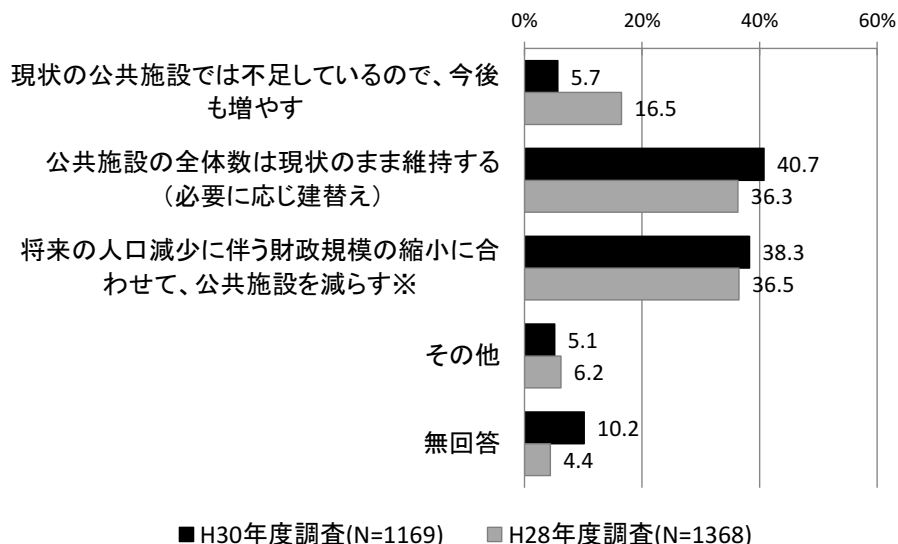
(3)「行財政改革について」のまとめ

- ・行政サービスと市民の負担については、「行政サービス維持のためなら、ある程度の市民の負担は仕方がない」32.9%と、「市民の負担を増やしてまで行政サービスを維持する必要はない」28.0%に2分されている。
- ・また、今後の行財政改革で特に重視するものは、経常経費・投資的経費の削減と業務の効率化に向けた取組や、歳入確保の取組が上位に挙げられている。
- ・前回調査との比較では、「職員数や給与の適正化」は9.0ポイント低下し、「I C T(情報通信技術)を活用した申請などの手続きや業務の効率化・迅速化」は7.4ポイント上昇している。

3-4. 公共施設について

(1) 今後の公共施設の整備や管理運営について

問 23 今後は、少子高齢化に伴う人口減少社会の到来により、宝塚市の財政規模が縮小していくことが考えられます。このような見通しを踏まえ、今後の公共施設の整備や管理運営についてどのように進めていくべきだとお考えですか。次の中から1つ選んで番号に○を付けてください。



※「平成28年度市民意識調査」の「必要性や人口規模等に見合うよう、公共施設を減らしていく」と「人口減少に伴う財政規模の縮小に合わせて、公共施設を大幅に減らしていく」の合計

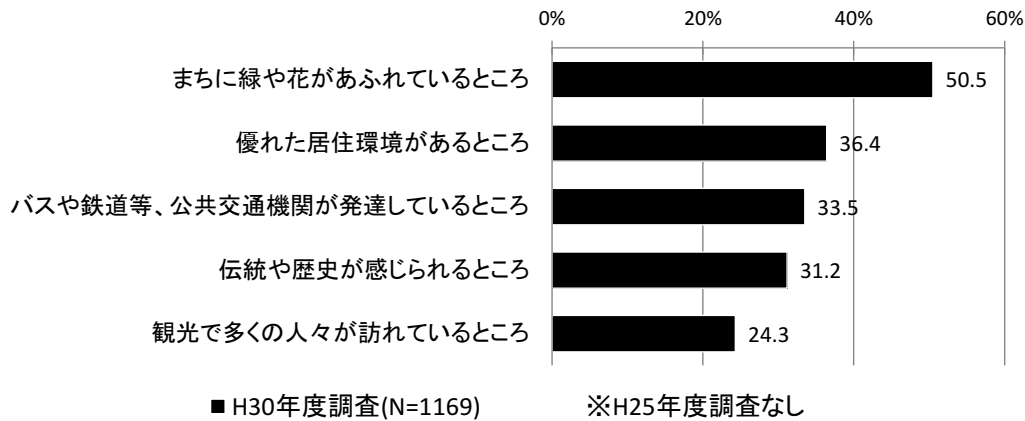
(2) 「公共施設について」のまとめ

- ・今後の整備や管理運営については、「現状の公共施設では不足しているので、今後も増やす」が前回調査 16.5%から 5.7%に低下し、「公共施設の全体数は現状のまま維持する（必要に応じ建替え）」40.7%と「将来の人口減少に伴う財政規模の縮小に合わせて、公共施設を減らす」38.3%に意見が2分されている。

3-5. 宝塚市のイメージについて

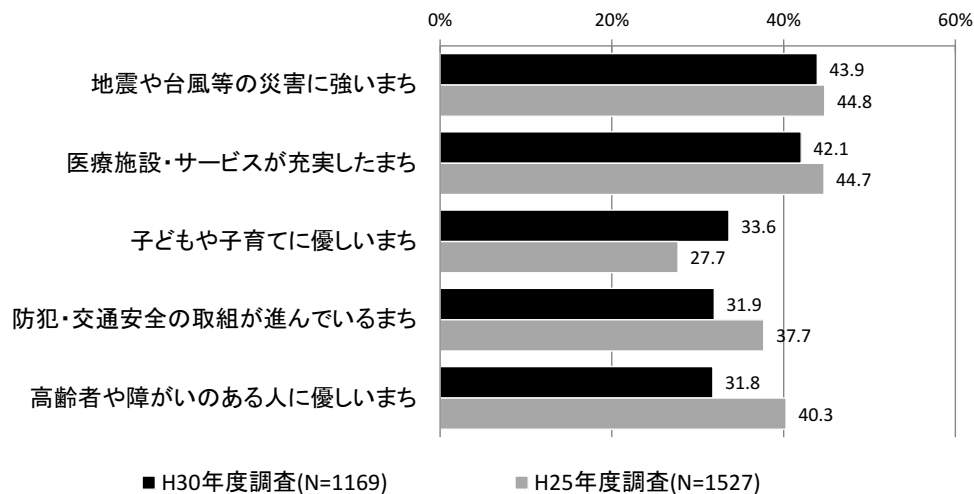
(1) 宝塚市が他都市より優れていること(複数回答5つ) (上位5つ)

問 24 あなたが他都市と比べて宝塚市の方が優れていると思うことは何ですか。次の中から5つまで選んで番号に○を付けてください。



(2) 理想とする宝塚市の将来イメージ(複数回答5つ) (上位5つ)

問 25 あなたが理想とする宝塚市の将来イメージについて、当てはまる項目を次の中から5つまで選んで番号に○を付けてください。



(3) 「宝塚市のイメージについて」のまとめ

- ・宝塚市が他都市より優れていることでは、「まちに緑や花があふれているところ」、「優れた居住環境があるところ」、「バスや鉄道等、公共交通機関が発達しているところ」、「伝統や歴史が感じられるところ」、「観光で多くの人々が訪れているところ」などが上位に挙げられ、多様な資源が相乗効果を発揮して本市独自のまちの魅力を創造している。
- ・理想とする将来のイメージとしては、安心・安全を充実させる「地震や台風等の災害に強いまち」、「医療施設・サービスが充実したまち」、「防犯・交通安全の取組が進んでいるまち」や、人にやさしくする「子どもや子育てに優しいまち」、「高齢者や障がいのある人に優しいまち」などが上位に挙げられている。

第4章 調査Ⅱの結果

4-1. 市民の意識や活動状況について

第5次宝塚市総合計画後期基本計画に掲げる6つの基本目標ごとにまとめた。

【基本目標1 これからの都市経営】

前回調査と比較して、「市の行政施策への関心度」はほぼ変わらないが、各広報メディアの利用頻度は少し低下している。一方、インターネットを「利用している」は77.5%と7.0ポイント上昇しており、情報化は着実に進んでいる。

【基本目標2 安全・都市基盤】

近年、台風や地震などの災害が多発しており、前回調査と比較して、すべての項目で上昇している。特に、「緊急時の避難場所の認知度」83.9%と「住宅用火災警報器の設置」78.5%は割合が高くなっている。市民の様々な危機に対する意識は高くなってきている。

【基本目標3 健康・福祉】

前回調査と比較して、「保健福祉サービスに関する情報の入手先」では「広報誌」が41.6%と8.3ポイント低下、「食育への関心度」で「関心がある」と「どちらかといえば関心がある」と回答とした市民の割合76.9%は5.1ポイント低下している。ほとんどの項目で低下し、市民の関心や意識が薄れている傾向がある。

【基本目標4 教育・子ども・人権】

前回調査と比較して、「社会における男女の機会均等の状況についての考え」で「十分に図られている」と「十分ではないが、どちらかという図られている」と回答した市民の割合34.6%は9.9ポイント低下、「地域による子どもの育成の取り組みについての考え」で「十分に組み込まれている」と「どちらかという、よく組み込まれている」と回答した市民の割合29.1%は8.4ポイント低下している。上昇している項目はあるが、低下している項目の方が多く、市民の意識がやや低下している。

【基本目標5 環境】

「ごみ減量化への取り組み状況」で「日常的に取り組んでいる」と「できる限り取り組むようにしている」と回答した市民の割合92.1%と「新たなまちづくりのルール必要性」83.8%は割合が特に高く、広く市民から理解が得られている。前回調査と比較して、「緑化（花）活動への取り組み状況」は低下しているが、その他の項目では大きな変化は見られない。

【基本目標6 観光・文化・産業】

「日用品などの購入場所」は「市内」が84.3%であるが、「趣味性・ファッション性が高い品や高級品などの購入場所」については「市内」が18.5%で、市外への流出率は高い。「宝塚歌劇に対する考え」では66.5%の市民が「まちの魅力であり財産である」と考えており、多くの市民に親しまれている。

表 市民の意識や活動状況についての回答一覧

基本目標	設問項目	H30年度調査	H28年度調査	H30年度調査とH28年度調査の差	説明
基本目標1 これからの都市経営	①広報誌「広報たからづか」の閲覧状況	35.9%	39.9%	-4.0%	「全内容を見る」+「半分以上は見る」と回答した市民の割合
	②議会報「かけはし」の閲覧状況	16.4%	20.5%	-4.1%	「全内容を見る」+「半分以上は見る」と回答した市民の割合
	③宝塚市のホームページの閲覧状況	23.3%	24.7%	-1.4%	「よく見る」+「たまに見る」と回答した市民の割合
	④コミュニティ FM「エフエム宝塚」の聴取状況	27.0%	29.9%	-2.9%	「聴いたことがある」と回答した市民の割合
	⑤コミュニティ FM「エフエム宝塚」の聴取頻度	34.5%	40.6%	-6.1%	「よく聴く」+「たまに聴く」と回答した市民の割合
	⑥コミュニティ FM「エフエム宝塚」の事業目的の認知度	21.7%	24.6%	-2.9%	「知っている」と回答した市民の割合
	⑦市の行政施策への関心度	48.4%	48.6%	-0.2%	「非常に関心がある」+「どちらかというに関心がある」と回答した市民の割合
	⑧市の行政施策に意見を述べたことの有無	10.7%	12.3%	-1.6%	「頻繁にしている」+「何度かしたことがある」と回答した市民の割合
	⑨福祉に関する地域のボランティア活動への参加状況	7.3%	8.8%	-1.5%	「日常的に参加している」「できる限り参加するようにしている」と回答した市民の割合
	⑩福祉以外のボランティア活動やまちづくり活動への参加状況	8.2%	10.1%	-1.9%	「日常的に参加している」+「できる限り参加するようにしている」と回答した市民の割合
	⑪今後参加してみたいボランティア活動	17.0%	15.6%	1.4%	最も多い回答の「地域活動」と回答した市民の割合
	⑫行政との協働の取り組み状況	12.9%	15.1%	-2.2%	「行政との協働の取り組みを行っている」+「行政との協働の取り組みを行っていないが今後行いたい」と回答した市民の割合
	⑬インターネットの利用状況	77.5%	70.5%	7.0%	「利用している」と回答した市民の割合
	⑭インターネットを安全に利用するための対策の状況	75.8%	77.1%	-1.3%	「している」と回答した市民の割合
	⑮インターネットを利用していない理由	32.3%	28.4%	3.9%	「操作の仕方がわからない」と回答した市民の割合
基本目標2 安全・都市基盤	①緊急時の避難所の認知度	83.9%	80.4%	3.5%	「知っている」と回答した市民の割合
	②災害に対する備えの状況	48.9%	43.3%	5.6%	「備えをしている」と回答した市民の割合
	③住宅用火災警報器の設置の状況	78.5%	76.4%	2.1%	「設置している」と回答した市民の割合
	④住宅用火災警報器の設置箇所（複数回答可）	72.6%	70.0%	2.6%	最も多い回答の「台所」と回答した市民の割合
	⑤居住地区の危険箇所の認知度	35.1%	34.2%	0.9%	「知っている」と回答した市民の割合

基本目標	設問	H30年度調査	H28年度調査	H30年度調査とH28年度調査の差	説明
基本目標3 健康・福祉	①健康づくりへの取り組み状況	52.5%	57.5%	-5.0%	「毎日取り組んでいる」+「毎日ではないが、できる限り取り組むようにしている」と回答した市民の割合
	②健康診断の受診頻度	0.92回	0.93回	-0.01回	「年2回以上」2、「年1回程度」1、「2、3年に1回程度」0.5、「ほとんど受診していない」0.1、「受診したことがない」0を、それぞれ回答割合に乗じた値の合計を選択肢の構成比の合計で除したものの
	③「かかりつけ医」の有無	50.1%	54.6%	-4.5%	「はい」と回答した市民の割合
	④「食育」への関心度	76.9%	82.0%	-5.1%	「関心がある」+「どちらかといえば関心がある」と回答した市民の割合
	⑤余暇活動の充実度	59.0%	63.6%	-4.6%	「大変充実している」「どちらかという充実している」と回答した市民の割合
	⑥保健福祉サービスに関する情報の入手先	41.6%	49.9%	-8.3%	最も多い回答の「広報誌(チラシ・パンフレット含む)」と回答した市民の割合
	⑦「お互いさま」があふれるまち・宝塚を実現するための取り組みの認知度	16.6%	-	-	「活動内容を知っている」+「名前のみ知っている」と回答した市民の割合
	⑧「お互いさま」があふれるまち・宝塚を実現するために必要なこと(複数回答3つ)	37.0%	-	-	最も多い回答の「公的な生活情報が高齢者に伝わるような配慮がある」と回答した市民の割合
基本目標4 教育・子ども・人権	①子育て環境についての考え	49.7%	52.2%	-2.5%	「とてもしやすい」+「どちらかという、しやすい」と回答した市民の割合
	②地域による子どもの育成の取り組みについての考え	29.1%	37.5%	-8.4%	「十分に取組まれている」+「どちらかという、よく取組まれている」と回答した市民の割合
	③日々の生活における人権尊重の状況についての考え	54.1%	61.9%	-7.8%	「十分に尊重されている」「十分ではないが、どちらかという尊重されている」と回答した市民の割合
	④市の施策における人権尊重の視点についての考え	32.9%	39.0%	-6.1%	「十分に立っている」+「十分ではないが、どちらかという立っている」と回答した市民の割合
	⑤社会における男女の機会均等の状況についての考え	34.6%	44.5%	-9.9%	「十分に図られている」+「十分ではないが、どちらかという図られている」と回答した市民の割合
	⑥市の施策における男女共同参画の視点についての考え	26.0%	31.4%	-5.4%	「十分に立っている」+「十分ではないが、どちらかという立っている」と回答した市民の割合
	⑦学習活動(学校教育以外のもの)への参加状況	23.2%	23.9%	-0.7%	「参加した」と回答した市民の割合
	⑧スポーツへの取り組み状況	35.4%	33.7%	1.7%	「取り組んでいる」と回答した市民の割合
	⑨スポーツに取り組まない理由(複数回答可)	54.8%	54.0%	0.8%	最も多い回答の「仕事で忙しくスポーツをする時間がない」と回答した市民の割合
	⑩地域の青少年健全育成に関する活動への参加状況	6.1%	4.0%	2.1%	「必ず参加している」+「できる限り参加するようにしている」と回答した市民の割合

基本目標	設問項目	H30年度調査	H28年度調査	H30年度調査とH28年度調査の差	説明
基本目標5 環境	①新たなまちづくりのルールの必要性	83.8%	83.5%	0.3%	「必要だと思う」と回答した市民の割合
	②緑化(花)活動への取り組み状況	36.0%	43.2%	-7.2%	「日常的に取り組んでいる」+「できる限り取り組むようにしている」と回答した市民の割合
	③新たな住宅などの開発に対する不安度	45.5%	48.3%	-2.8%	「とても不安を感じる」+「やや不安を感じる」と回答した市民の割合
	④市内の自然環境の保全状況についての考え	56.5%	60.9%	-4.4%	「よく保全されている」+「どちらかというとよく保全されている」と回答した市民の割合
	⑤環境保全活動への参加状況	30.3%	—	—	「参加している」+「できる限り参加するようにしている」と回答した市民の割合
	⑥ごみ減量化への取り組み状況	92.1%	90.4%	1.7%	「日常的に取り組んでいる」+「できる限り取り組むようにしている」と回答した市民の割合
	⑦取り組むべきと感じている環境問題(複数回答3つ)	50.4%	48.0%	2.4%	最も多い回答の「生活環境の保全(ポイ捨て禁止など)」と回答した市民の割合
	⑧省エネルギーや節電、再生可能エネルギーの導入にあたって必要なこと	27.6%	28.5%	-0.9%	最も多い回答の「生活スタイルの見直し」と回答した市民の割合
	⑨墓地の必要度	32.7%	32.1%	0.6%	「一般的な永代区画が必要である」+「集合墓地・納骨堂などがあればよい」と回答した市民の割合
基本目標6 観光・文化・産業	①文化芸術活動の状況	24.5%	24.8%	-0.3%	「よく親しんでいる」と回答した市民の割合
	②日用品などの購入場所	84.3%	86.3%	-2.0%	「市内」と回答した市民の割合
	③趣味性・ファッション性が高い品や高級品などの購入場所	18.5%	21.5%	-3.0%	「市内」と回答した市民の割合
	④「宝塚ブランド」の確立についての考え	35.5%	37.5%	-2.0%	「確立されている」と回答した市民の割合
	⑤宝塚歌劇の観劇頻度	11.8%	11.1%	0.7%	「頻繁に観に行く」+「よく観に行く(年に1~2回程度)」+「時々観に行く」と回答した市民の割合
	⑥宝塚歌劇に対する考え(複数回答可)	66.5%	66.3%	0.2%	最も多い回答「まちの魅力であり財産である」と回答した市民の割合

4-2. 市の取り組みについて

市の取り組みへの評価について、以下の通りに数値化し、分析を行った。

① 市の取り組みへの評価の数値化(算出方法)

- ・各選択肢（わからない、無回答を除く）に得点を配分する。

表 得点配分

選択肢	得点
十分できている	5
できている	4
普通	3
あまりできていない	2
できていない	1
わからない、無回答	対象外

- ・各選択肢の構成比に得点を乗じ、その合計値を選択肢の構成比の合計で除して、評価点を算出する。

- ・算出式

$$\text{評価点} = ((\text{「十分できている」構成比} \times 5) + (\text{「できている」構成比} \times 4) + (\text{「普通」構成比} \times 3) + (\text{「あまりできていない」構成比} \times 2) + (\text{「できていない」構成比} \times 1)) \div \Sigma (\text{選択肢の構成比の合計})$$

② 算出結果と経年比較

次ページの表のとおり、評価されている施策は、基本目標2の「⑥水道水の安全・安定的な供給」と「③消防救急体制」、基本目標1の「①市政の情報提供、広報」などである。

あまり評価されていない施策は、基本目標2の「⑤歩道の段差解消などのバリアフリー化」、基本目標6の「③まちの活性化につながる商業振興に関する取り組み」と「④若者の職業的自立に向けた支援や情報提供」などである。

前回調査との比較では、基本目標2の「②防犯・交通安全に関する情報提供」、
「③消防救急体制」、
「⑥水道水の安全・安定的な供給」、
基本目標5の「④市民の自主的なまちづくりのルールづくりによる良好な住環境の確保」、
基本目標6の「④若者の職業的自立に向けた支援や情報提供」などが上昇し、
基本目標2の「④バス路線のネットワーク化」、
基本目標3の「②小児救急体制」、
基本目標4の「①保育に関するサービス」などが低下している。

表 市の取り組みへの評価の経年比較 (H30年度、H28年度)

基本目標	施策	H30年度調査	H28年度調査	H30年度調査とH28年度調査の差
基本目標1 これからの 都市経営	①市政の情報提供、広報	3.27	3.24	0.03
	②福祉に関するボランティア活動への支援	2.85	2.86	-0.01
	③教育、文化、環境など福祉以外のボランティア活動やまちづくり活動への支援	2.83	2.82	0.01
基本目標2 安全・都市 基盤	①防災に関する情報提供	3.02	3.02	0.00
	②防犯・交通安全に関する情報提供	2.91	2.85	0.06
	③消防救急体制	3.33	3.15	0.18
	④バス路線のネットワーク化	2.46	2.53	-0.07
	⑤歩道の段差解消などのバリアフリー化	2.24	2.28	-0.04
	⑥水道水の安全・安定的な供給(主な取り組み)耐震対策・水質の保全など	3.46	3.40	0.06
基本目標3 健康・福祉	①健康的な生活習慣づくりに関する意識啓発活動	2.92	2.94	-0.02
	②小児救急体制	2.59	2.70	-0.11
	③市立病院の医療サービス	2.84	2.82	0.02
基本目標4 教育・子ども・人権	①保育に関するサービス	2.76	2.86	-0.10
	②子ども、保護者、地域のニーズに対する教育行政の取り組み※	2.73	-	-
	③宝塚市立の小・中学校の基礎・基本的な学力の定着への取り組み※	2.84	-	-
	④宝塚市立の幼稚園や小・中学校の安全対策※	2.97	-	-
	⑤宝塚市立の小・中学校のいじめなどの問題に対する対策※	2.49	-	-
	⑥青少年の健全育成に関する取り組み※	2.75	-	-
基本目標5 環境	①市域全体の景観保全	2.94	2.95	-0.01
	②地域緑化(花)活動への取り組み	3.11	3.16	-0.05
	③身近な開発行為に対する市の手続きの透明性の確保	2.61	2.59	0.02
	④市民の自主的なまちづくりのルールづくりによる良好な住環境の確保	2.89	2.83	0.06
	⑤自然環境保全への取り組み	2.92	2.88	0.04
	⑥環境教育・学習の取り組み	2.90	2.91	-0.01
	⑦分別収集などごみの減量化の取り組み	3.16	3.19	-0.03
	⑧省エネルギー・再生可能エネルギー推進への取り組み(H30年度のみ)	2.70	-	-
基本目標6 観光・文化・産業	①市民の文化活動に対する支援	2.90	2.87	0.03
	②「宝塚」が持つ魅力の市内外への情報発信	2.76	2.72	0.04
	③まちの活性化につながる商業振興に関する取り組み	2.30	2.34	-0.04
	④若者の職業的自立に向けた支援や情報提供	2.36	2.25	0.11
	⑤農業振興に関する施策(H30年度のみ)	2.45	-	-

※H28年度では②～⑥の項目は、回答者を「宝塚「市立」幼稚園、小中学校に通うお子さんがおられる方」に限定しており、H30年度と比較できない。